

豪州ビクトリア州農業視察レポート①

ファームワールド

2

010

FARM WORLD 2010

WARRIGUL
FARM WORLD
INFORMED FARMINGMarch 25-28
2010SOUTHERN
Farmer

ファームワールドはオーストラリアを代表する「野外農場ショー」だ。今回で48回目を数える。

弊誌が去る3月に企画した「Made by Japanese視察ツアーin ビクトリア州」の最初の視察地として、参加者とともに立ち寄った。

編集長がとくに注目した18機種の農機・資材を一挙掲載する。

取材・構成 昆吉則・浅川芳裕

ショーの開催地ワラガルは、ビクトリア州の州都メルボルンから東南100 kmに位置する小さな町だ。人口1万3000人のワラガルに毎年3月の4日間、ファームワールドを指して5万人がやってくる。周辺市町村の人口を合わせても4万人かそこらだ。この地域にとっても、どれほどの大イベントかわかるだろう。これといった目玉はない。600を超える農業機械・資材の商品ブース、酪農地帯ならではの家畜の展示、農場で使う身の回りのグッズの数々といったところだ。それでも、やってくるのはみな家族連れで、20 haの会場をゆったりと周遊する。子供を遊ばせながら、途中で出会う知人と旧交を温めたり、業者との情報交換をしたりと、思い思いだ。

「うらやましい。日本でも家族連れで楽しめるこんな農業ショーがあればなあ」

参加した農業経営者たちの共通した感想だ。

出席はできなかったが、開会のテープカットは豪州の人気スポーツ・クリケットの伝説的選手グレン・マックグラス氏が行った。室内では有名シェフによる料理教室が連日開かれるなど、農と食を分け隔てることのないイベントとして定着している様子がうかがえた。

※撮影：扉写真及び写真1は、市川晴久氏。その他、編集部



1 写真はゴムクローラトラクタの歴史を作ってきたチャレンジャー（米国AGCO社）のMT700Cシリーズ（エンジン馬力300～320hp）。展示者の話ではこの上の800Cシリーズ（同410～585ps）もよく売れていると話していた。ユーザーは穀類農家から野菜農家まで多様だそうだ。2 これもチャレンジャーのホイールタイプMT600Cシリーズ。写真の機械は240psのものだが、同シリーズには320psまであり、MT900シリーズでは440～585psまでのバラエティがある（エンジン馬力300～320hp）。3 4 オーストラリアでもプラウが復活しているようだ。写真は総合作業機メーカーであるクバナランド（ノルウェー）のプラウ。3 はスチールタイプだが、4 はプラスチック板を張り付けたものではなく、ボトム全体がプラスチック製のプラウ。水稲が作られていたような粘土地帯で使われているという。5 碎土整地機はこうした作業幅の広いリングローラを付けたタイプが多く出されていたが、機械による踏圧の害を避けるために複合型の碎土整地機が目立った。6 スガノのプラソイラに似たチゼルに碎土用のツースハローを組み合わせた機械。7 花形のディスクハローに回転爪とカゴローターを組み合わせたもの。移動時は油圧で二つに折れ曲がる。8 二列の形状の違うディスクハローに前後を棒状のハローで挟まれたカゴローターを付けた碎土整地機。



9と10は同じ機械を前後から写したもので、施肥播種機。後ろに前後にダブルで10個のタイヤを並べた鎮圧装置がある。11 Checchi & Magli社（イタリア）の野菜移植機。作業者の前方のマストに苗箱を吊るし、それを取りながらカップに苗を供給するタイプ。このユニットを組み合わせた6条までの作業が可能だという。12 ジャガイモ用の培土機。13 ノルウェイのTKS MEKANISKE社の2畦掘りのポテトハーベスタUnderhaug UN2700。全長が10.35mと長いのが、とても斬新なデザインだ。14 AVR bvba社（ベルギー）のオフセット方型畦掘りポテトハーベスタSpirit8200。コンベアの角度や速度をコントロールボタンで操作できる。15 CARONI社（イタリア）の果樹園用の中耕除草機。縦軸の爪、ロータリ爪、それにらせんローターが付いており、機体の先端が木に当たると機械が逃げる仕組みになっている。トラクタのフロントに装着するもののほか、ミッドマウント、リアマウントがあるそうだ。16 こちらはミニローバラーは果樹園用の機械らしい。

農機全般に言えることは、大規模化が進む穀物地帯の展示会と違い、中規模なものが多い。この地域は、年間降水量が1000mmを超える、オーストラリアでも有数の野菜・果樹地帯なのだ。

野外の実演展示は耕作機械が中心だ。豪州には世界的な農機メーカーが存在せず、展示のほとんどは欧州や米国ブランドのものだ。

ビクトリア州の農業生産は年率10%の成長を遂げている。現在800億円の産出高で、日本の約10%の生産規模だ。農場数は約3万件。農場の年商は平均3000万円ぐらいになる。世帯収入が500万円から1000数万円といったところだろうか。

「皆、いい車乗ってるな。結構儲かっていそうだ」（参加者）

次々にやってくる来場者の自動車は大半が4、500万円は下らないような高級車ばかり。農家が主体だが、農場、牧場を所有して週末やバカンスを地方で楽しんでいる新興農場主の数も増えていると聞いた。こういう趣味層にとっても、年に一度、数々の農機に囲まれて楽しめるイベントなのだろう。

日本もここまで農業のステータスがあれば、本当の農業ブームと言っているかもしれない。



17 18 ビクトリア州では穀類から果樹や園芸などの高付加価値作物への転換が進んでいるが、傾斜果樹園用にAEBI (スイス)のTerratracが大きなスペースで展示されていた。傾斜地に対応するために車高が低く4輪操舵式で機体の前後に作業機を装着できる。19 20 果樹園用のスプレーヤー。19 は一般的なスピードスプレーヤーだが、20 は頂上部の吹き出し口の先にホースをつなぎ、生垣仕立てにしたブドウ棚を跨がせ両サイドからの防除を行う。21 22 展示会の主催者であるビクトリア農業者協会の展示会実行委員長主催による我われに対する歓迎レセプション。羊のローストの巨大サイズには驚かされた。